

## 羽津中学校



### <所在地>

〒510-0012 四日市市羽津甲 26 番地

TEL 059-330-0048

### 1 本校のこれまでの読書推進活動について

読書活動推進校として3年目となる。1年目は貸出冊数を増加させるための図書館におけるイベント開催に力を入れ、貸出冊数を2016冊から5208冊まで増加させることに成功した。1年目の活動は「子供の読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰」を受けることができた。また、2年目はすべての学校図書館でできる取り組みを目指し、「学校図書館の環境整備」に重点を置いて活動をした。イベントの開催を控え、机や椅子の配置、本の置き方の工夫、学級文庫の配置などについて先進的に取り組んだ。貸出冊数についても5265冊に増え、大きなイベント等の開催がなくても貸出冊数を増やす効果が挙げられることを実証することができた。

### 2 今年度の取り組みにおける柱

今年度の活動の柱は「学校図書館の授業活用方法について研究する」であった。これまで羽津中学校では、「マッチングブック」や「#で伝える推し本」という授業の実施を行ってきた。

今年度は表現活動や言語活動にかかわる授業実践を目標に活動を進めた。特に本校では、1学期と2学期の終わりに読書スピーチを行っており、自分が読書を通じて感じた内容を他者に伝えるという表現活動を行っているため、その活動と結び付いた授業実践を考えることとした。

ICTが使われるようになった昨今、学校図書館の授業内活用の機会は減っている。しかし、学校図書館ならではの魅力や利点もあり、使わないともったいない施設であることに間違いはない。この魅力や利点を伝えながら活動を行い、本の貸出冊数の増加や往来の増加につなげていく工夫を凝らしていきたいと考えた。

### 3 学校図書館を活用した実践報告

今年度の羽津中学校では、「目指せ！スピーチマスター！」という授業に取り組んだ。年度初めからリブネットに連絡し、読書スピーチを活性化するための表現力や思考力を身に着けるための授業実践について案を練った。そのため、この授業は読書スピーチの原稿を作るための練習という位置づけにあたるものとなった。

授業実践で一番工夫した点は学年に応じた授業内容にしたことである。同じ内容で全学年開催するのではなく、成長段階に合う授業で行った。

1年生では序論・本論・結論の見本の文章を作成し、空欄を埋める形でスピーチの基礎を考えていった。また、序論→本論→結論という順番を意識させることで、論理的な文章を作り上げることを理解させることもできた。

2年生では序論・本論・結論の種類分けを隠した状態の見本の文章だけを示し、順番を各自で工夫することで、文章の変化や聞いて受ける印象の変化について学ぶことができた。

3年生ではそれぞれの生徒の実態に応じる形で実践を行った。自分で文章を考えたり、見本の文章から学んで文章を考えたり、順番についても工夫したりして、生徒が選択的に学習を進められる授業となった。また、余裕のある生徒は、自分が紹介する本のキャッチコピーを20字から30字程度で考え、本の帯を作成するというも行った。

生徒からは、「自分では思いつかなかった表現や順番の工夫が感じられて面白かった」や「同じ話でも序論・本論・結論の順番を変えるだけで全然違う話のように感じた」といった感想が寄せられ、表現力や思考力の向上に寄与することができたのではないかと感じた。

### 4 成果と課題、今後の方向性について

成果としては、今回の図書室を活用した授業実践が、生徒の表現力や思考力、文章力を育む活動として適切であることが、生徒の感想や実態からわかってきたことが挙げられる。